

協賛会社の新しい動画、新製品、新企画、続々…

「バーチャル説明会2021」からご覧下さい

財団HPの「バーチャル説明会2021」でご紹介している協賛会社などのPRのうち、まだ新聞で未掲載だったものを以下にまとめました。

日本テトラパック (ベルマーク番号17) のベルマーク運動は、紙パックを回収センターに送ると、重量に応じて点数が付与される方式です。そのやり方を1分30秒にまとめた動画が、バーチャル説明会からご覧になれます。



同社は持続可能な社会実現に向け、積極的に社会貢献活動及び環境活動を展開しています。社会貢献と同時に、環境面での紙パックリサイクルを推進したいとの考えから、ベルマーク運動に参加していただいています。問い合わせは日本テトラパックのベルマーク運動受付センター (0545-30-6690、平日10:00～16:00)へ。

クレハ (同10) からは、おなじみのおかっぱ姉妹によるNEWクレラップの新しいCM動画が届きました。箱を持つ手をクルッと回すときれいにカットできるのは、V字型の刃に秘密があります。ベルマークも箱を開封する際の切り取り部分に付いています。そのため、切り取るのがとても簡単です。



同社の家庭用品サイト「クレライフ」には、様々なレシピや家事のアイデアが満載。こちらもぜひご覧ください。

クツワ (同55) は今春から、こどもの未来のための学習をサポートする文具の新ブランド「ミラガク」を誕生させました。「GIGAスクール対応商品」「リビング学習対応商品」「こどもの自立を促す商品」いう3つのテーマで多彩な商品を展開しています。バーチャル説明会のページ

から、その紹介動画を見に行くことができます。

タブレットやパソコンをランドセルに収納する「タプラススクール」、消しゴムと画面クリーナーがひとつになった「ぴかケシ」、文房具やA4ファイル、教科書などをまとめて収納する「超整理箱」、こどもが自らの予定を楽しみながら管理できる「こどものよてい帳」など、工夫を凝らした商品がラインナップされています。同社のHPでは、ほかにも商品に関する様々な動画がいっぱいです。



セメダイン (同84) は今春、新製品「スーパー Xデュオ」を発売しました。約1分で実用強度に達し、電動工具を使わなくても気軽にDIYなどを楽しめるそうです。紹介動画をご覧になることができます。



同社のスーパー Xシリーズは、世界のプロ現場から家庭まで使用されている超多用途接着剤です。ベルマークは台紙についています。また、木工用シリーズの接着剤には、ボトル裏面にベルマークがついています。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合 (同76) は、コロナ禍に配慮した「バーチャル工場見学」を企画しています。教室にしながら工場体験ができ、リサイクルの大切さを学びます。車の取扱説明書をアップサイクルした環境教育ノートももらえます。



詳細はNGPホームページの「工場見学」をご覧ください。裏面が申し込み用紙になっているチラシもダウンロードできます。問い合わせはNGP事務

局(電話03-5475-1208、ファクス03-5475-1209、Eメールngphonbu@ngp.gr.jp)へ。地域によっては感染対策に留意した実際の訪問見学も実施しています。ご希望の方は事務局にお問い合わせください。

ジブラルタ生命保険 (同15) は生命保険業界で初の協賛会社でもあり、個人向け新規1契約に一律100点のベルマークが付いています。業界初&業界唯一で日本PTA全国協議会の推薦商品でもありません。



4月に創立20周年を迎えた同社は「社員一人ひとりが地域コミュニティに貢献することにより、会社と地域がともに成長すること」を大切にしており、ベルマークをはじめさまざまな社会貢献活動を展開しています。

こうした理念に沿って、同社は「子ども」と「地域」をテーマにした社会貢献活動に全国で積極的に取り組んでいます。これらの活動をまとめた新しいパンフレット「Magic of the Dream」ができました。バーチャル説明会から飛んだ同社のページからダウンロードできます。

また、財団の教育応援隊のひとつ「防災科学教室」は2021年度、コロナ禍に配慮したオンライン開催も始めます。リアルな教室かオンラインか、ご希望に沿った形で実施します。



あらゆる種類の自然災害を研究している国立研究開発法人・防災科学技術研究所から、Dr.ナダレンジャーとして有名な雪崩研究者の納口恭明博士をはじめ、専門の講師が派遣され、災害からの身の守り方なども含めて、分かりやすくお話しします。費用は無料。オンライン開催は、講師と複数の家庭をつないだ自宅学習方式も可能です。問い合わせはベルマーク財団まで。なお、事務所移転で6月21日から財団の電話番号が変わります。ご注意ください(1面参照)。

セイコーエプソンが今年も14万点

自社カートリッジを回収して「寄贈マーク」に

協賛会社エプソン販売 (ベルマーク番号73) の親会社、セイコーエプソン (本社・長野県諏訪市) から、ベルマーク14万8700点が財団に寄贈されました。セイコーエプソンは2012年から全社をあげて使用済みの自社製カートリッジを集めています。今回は、昨年度に収集した分を、点数証明書はがきの形で届けてくれました。



同社は本社と全事業所、関連会社に回収箱を置き、社員や取引先、地域の人たちからカートリッジを集めています。総務部社会貢献担当の佐藤幸子さんによれば、コロナ禍のため、昨年度は来訪者の受け入れをストップしていた期間があったそうです。でも、年間でインクカートリッジ2万7000個、トナーカートリッジは100個以上が集まりました。「コロナの影響で、在宅で印刷する需要が増えたこともあり、プリンターやインクが多

く売れました。使用済みのカートリッジの回収率も上がるのでは」と佐藤さん。

セイコーエプソンは、コロナ禍を受けて、昨年からは国内外で支援を続けています。変異ウイルスにより感染者数が急増したインドでは、エプソンインド(現地販売法人)がオーストラリアから酸素濃縮器を緊急輸入し、NPOを通じて病院に寄贈しました。

エプソンのカートリッジはすべて、障がい者雇用を促進している同社の特例子会社、エプソンミズベがまとめ、仕分けします。その結果を、関連会社のエプソロジーティクスが、点数証明書はがきとして参加団体に返しています。



ナックが13年連続のマーク寄贈

インク・トナーカートリッジ含め段ボール4箱

株式会社ナック(本社・東京都新宿区)から、社内で集めたベルマークとインク・トナーカートリッジが届きました。同社IR・広報室の松田萌絵さんと鈴木麻由さんが6月4日、ベルマーク財団を訪れて寄贈してくれました。同社からの寄贈はこれで13年連続。段ボール4箱のうち1箱は切り取ったベルマーク、3箱にはカートリッジがぎっしり詰まっています。

「暮らしのお役立ち企業」を掲げ、生活に密着した事業を展開している同社は、以前から社会貢献にも力を入れてきました。ところが昨年からは続くコロナ禍によって、地域清掃といった今までの活動がやりにくくなりました。そんな中、同社は社内外への情報発信に努め、創業50周年を迎えたこの春には、初めて「CSRレポート」を発行しました。

企業理念や、SDGsも含めたCSR推進体制、様々な事業展開を通じての問題解決への寄与など、同社の活動が網羅されたレポートです。松田さんと鈴木さんとは

もに同社CSR委員会メンバーで、レポート本文の執筆にあたりました。「社内の色々なところが何をしているか、よく分かりました」と鈴木さん。レポートにはベルマーク寄贈も活動事例として挙げられています。

「今までベルマークは親会社のナックだけで集めていましたが、これからはグループ会社も一緒になって集めていきます」と松田さん。ありがとうございます、今後もよろしくおねがいします。



左から、ナック IR・広報室の鈴木麻由さん、松田萌絵さん、ベルマーク財団の小野高道常務理事